

弓箭及び馬柄杓數種

此の神社もと珍奇の社寶を多く藏したりしが、嘉吉年中安西氏と九氏との戰爭によりて、其の多くを失ひたりと云ふ。

海南刀切神社

鉦切船越神社

海南刀切神社は西岬村見物に在り。鉦切船越神社は大字濱田に在り。兩社通路を隔て、相對す。刀切神社は境内百八十三坪。巨巖海を後にす。社後の巨巖兩斷せる所、身を側て、僅かに往來すべし。船越神社は路傍より折れて西南に向ふこと凡一町許、船越山の麓に在り。境内五百三十三坪。社内に石窟あり。其底得て測るべからず。

傳へ曰ふ、古昔此の神獨木舟に乗りて、此の海濱に來り、鉦を以て巨巖を切り路を開いて上る。故に一神にして船越鉦切の二名ありと。

又曰く、古紫池と云へるあり。中に巨蛇潜伏し、往々出て、人民を惱ます。此の時相模より獨木舟に乗りて渡る神あり。一刀を以て大蛇を退治し給ふ。故に刀切神と號すと。相州三浦郡椏谷山神社記に、安房刀切神社は當神の御子を勸請せりと見ゆ。

社寶の獨木舟長さ八尺幅尺餘、形頗る奇古。其の太古のものたるや明なり。村社にして祭日は七月十五日なり。

小 鹿 神 社

長尾村瀧口字犬澤と云へる處にあり。下立松原神社ともいふ。天日鷲命を祀る。境内六百八十四坪。喬松蒼蔚、蒼々として空に聳ゆ。故に社號を松原神社と云ふ。此の山嶺より直下する瀧あり。流沫四散。宛然霜柱の凝立するが如し。故に霜立松原神社と云ふ。中古以後下立松原神社と改む。然るに元祿十六年大地震の爲山巖崩れ泉脈絶え、飛泉墮下せず。之が爲めに稻田を没落損亡せしもの鮮ならず。故を以て今尙亡田の稱を存す。

由 緒

神武天皇元年の創建に係る。古語拾遺に曰く、一聞夫開闢之初、(中畧)又天地割判之初、天中所生神名曰天御中主神。次高皇產靈神。次神皇產靈神、其高皇產靈神所生之女、名曰栲幡千千姬命。其男名曰天忍日命、又男名曰天太玉命。(忌部宿禰祖也)太玉命所率神名曰天日鷲命。(阿波國忌部祖也)天日鷲命之孫、造木綿及麻並織布。仍令天富命率日鷲命之孫、求肥饒地。遣阿波國、殖穀麻種。其裔今在彼國。と見ゆ。三才圖會に云ふ、小巖明神、在瀧口村。祭天日鷲命。社領十石と。按ずるに神武天皇辛酉元年、阿波の忌部の遠祖天日鷲命の御孫由布津主命、忌部の遠祖天太玉命の御孫天富命兩神、勅を蒙り東國に下り、民に農事を勸め麻穀を繁殖せしむ。當時其の祖を祀れるなり。

(口) 社 寶

社寶として由布津主命の飯椀と傳ふるもの、並に源賴朝の奉納せる家平の太刀及び自筆瀧口明神の額面を藏す。別に村正の太刀一口あり。文安二年里見義實の奉納せしものなりと云ふ。

天 神 社